文献上より見たる中国癩病史の一端

国立台湾大学 賴 尙 和

ON A PART OF HISTORY OF LEPROSY IN CHINA APPEARED IN LITERATURES

Prof. Shang-Ho Rai M. D.

(National University of Formosa)

中国は御承知の通り古い歴史を有する国で、中国に於ける癩病も亦同時に歴史は深く始めて医学的記述の出来る太古時代からあり、しかもその醜惡猙獰の容貌が早くから社会的に種々の方面に利用されて居る事は中国癩病史の一特色でありましょう。

私は此度北京中央図書館の遷合及び各種珍古書籍の公私人に依りて移入した御蔭で、多くの經史漢方医薬書籍を読む機会を得まして、今迄気のつかぬ事柄を見出し得ましたので茲に数例を挙げて見ましょう。

1 癩発病と年齢との関係

現在癩病を有する親から児童を出来る限り早期に隔離すれば児童は多くの場合発病せず止むと、又感染時期の多くは幼少時代に多いと云う事を云われて居るが、1773年清乾隆時代顧世澄の著したる瘍医大全第二十八卷大麻風門に「麻風之始由各有不同 有壮年而発者 有14~15歳而発者 有4~5歳而発者」。

所感有殊 其壮年而発者 因不能節慾致喪腎元精液枯竭 腠理不密 易感寒湿之邪。14~15歳而発者 先天不足 氣血俱虧 膚理虚疎 為父母者 不明其本源 失於護育 致感寒湿之邪 入於筋骨 其発之速 其遍之易 非壮年可比 百不能全四五 何也 因其筋骨未堅 肌肉脆嫩 毒易攻耳。其4~5歳而発者 尤甚於此。

此症縁父母交媾之前 先有湿症（癩）所懷之胎 豈無是疾 既生之後 日積月累 遍溢周身 後感風邪 湿遇風 而化熱 薰蒸血脈肌肉 遂発此症。

其の所論は近代の科学に完全合致して居ると云わぬが、約200年前の清乾隆時代から14~15歳のものは壮年よりも容易に、4~5歳の者は14~15歳のものよりも容易に感染する事及び胎盤感染の可能性あることを顧世澄が主唱して居たものである。

二 類癩体質之記述

西暦270年頃晋皇甫謐著作の黄帝鍼灸甲乙經第八卷陽

受病發風之項目に「黄帝問曰、人之善病風濕々汗出者何以候之。岐伯曰 肉不堅腠理疎者善風也、帝曰 何以候肉之不堅也。岐伯曰 膈肉不堅而無分理者肉不堅 膚粗皮不緻者腠理疎也」。膈肉は腓腸の上、膝膕窩部の筋肉を指し、膈肉の堅らず而して分理無きを肉不堅と云い、はだのきめの緻密を欠くるを腠理疎と云う。斯る者は氣を泄漏し容易に出汗する、依つて風病に罹り易いと云う。鍼灸甲乙經はより古しの靈樞「五變第四十六」の説を分り易く引用したのである。

黄帝岐伯は中国太古の医薬界に最も貢献のあつた君臣で後世の作家克く問答式の医書に利用する。本処の黄帝問、岐伯答もその例であつて、本人であるか否かは問題でない。

三 癩醜形容の利用

形容醜變の癩病は、今の人の厭惡のみならず、古人もそれであつた。甚しきに至つては此の種の汚穢醜惡の形状を利用して呪罵、覺世箴言或は報仇、遁世の護身術に利用して來たのである。

1. 呪罵に於ての利用

春秋左伝に「親逐而君、爾父為厲」との句がある。春秋時代衛、孫蒯の父孫林父の国君を逐うた事は西暦約560年前の事である。

2. 護身に於ての利用

甲、復 仇

東周列国時代 趙襄子 与韓國魏国聯合、而滅智伯国。智伯之官吏予護者漆身為厲、滅髮去眉、自刑以變其容、為乞人而往乞、其妻不識曰、状貌不似吾夫、其音何類吾夫之甚也、又吞炭為啞、變其音、企圖復仇（戦国策史記）此の事は西暦約453年前の事である。

乙、遁 世

A、戦国策に范雎説秦王（秦昭王、前255年）の一文あり、その一節「臣今日言之於前 明日伏誅於後、然臣不敢避也、大王信能行臣之言、死不足為臣患、亡足以為臣

憂、漆身為厲，被髮為狂，不足為臣耻」矢張り漆身為厲の句あり，加之范雎の本文章に「箕子 接輿漆身為厲，被髮為狂」の句がある。箕子は紀元前 1154 年殷の時代の紂王の叔父で，接輿は孔子と同時代，楚の賢人陸通の別号である。

B，華陽国誌に「漢光武帝時，公孫述叛反 知費貽之能幹欲用之，費貽不欲出仕乱也，，漆身為厲佯狂遁世，公孫述破後，方出合浦之守」。公孫述の叛反は西暦23年頃の事である。

此等に依て紀元前 1154 年から癩の醜惡な形容が世人の厭惡を幸に護身に利用した例である。

3. 覺世箴言に於ての利用

甲，西暦368年前莊子の著作華南真經に「厲与西施」の句あり，曰く「可乎可，不可乎不可，道行之而成，物謂之而然，然於然 惡乎不然 不然於不然 物固有所然 物固有所可，無物不然，無物不可，故為是拳，蕤与楹，厲与西施，恢恠憭怪，道其一」。莊子の性格を以て言えば正に如是である，普通の言い方を以てすれば，其の意味は厲是人の極醜，西施是人の極美である。極醜と極美は，極より極に至る其の差の遠からずの寓意で，仏經の色則是空，空則是色，即ち之れであろう。

乙，西暦240年前秦 韓非の著作韓非子，或は西暦107年前漢 韓嬰の著作 韓詩外伝に「厲憐王」の語あり，其の意，厲は極めて慘酷の病にして治癒易からざるも，直

ちに死ぬこと無く，好戦無道の君は，兵を擁し王を称するも，遠からず正に劫殺を受け死亡するものである。故に其の心中の憂慮苦痛は厲より甚しいであろう。此警語は戦国時代に盛行した言葉であつた。

以上原著諸書に在りては各特殊の用意有るであろう。然し癩史実を蒐集する吾人は，此の由りて癩病の確實に当時の社会に存在せる反証となり，且その醜惡なる形容は早くから種々の方面に利用せられて居た事が分かる。

4. 伯牛の疾

孔子の弟子，伯牛の疾は非癩に非らずや，その理由にその前後に癩の例症無き故，その時代に癩の存在を疑うと或者は梅毒に非らずやと説あるも，孔子の出生は西暦前551年にして12賢人の一人であつた。伯牛の死は恐らく孔子既に名を成しての紀元前500年頃であろう。されば上記紀元前のみの記録を見るに1154, 560, 453, 368, 240, 170 と続出し更に精査すれば文献がもつと出る事が予想される。上記諸例に徴しても西暦500年前中国に斯の病気のあつた事は何等珍らしい事でない。

又梅毒の中国伝来は16世紀（明）なる事は既に知られて居るが實際素問，靈樞，病源候論，千金方等に梅毒に類似な徴状の記載を見当らず癩に相違ないと惟う。

（頼尙和博士は，残念ながら学会へ出席できなかつたのですが，ここにその講演要旨のみを掲げます。）